

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502389		
法人名	有限会社 敬友		
事業所名	グループホーム いずみの里 (こもれび)		
所在地	札幌市白石区北郷2条1丁目4番32号		
自己評価作成日	平成22年7月1日	評価結果市町村受理日	平成22年8月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設当初から町内会に加入、ご近所や商店街、小・中学校や近隣施設に挨拶に伺い地域との連携、関係性を重視した運営を心掛けてきました。  
現在も子供会行事参加や施設への招待、町内防災運動会、ふれあいコンサート等地域の催しには、積極的な参加を通して交流を図っております。  
ご町内の方々へ、施設行事の際のボランティア、ホームへの訪問、散歩の際には声をかけてくださりお花屋畑の野菜を頂いたり、日常的にも利用者の安全を気にかけてくださり、知らせてくれます。  
地域の中で当たり前に暮らしていくために、大切な応援者(団)的存在であると感謝いたしております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170502389&amp;SCD=370">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170502389&amp;SCD=370</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成22年7月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

札幌市内の住宅地にある2ユニットのグループホームです。建物は3階建てで、1～2階がグループホーム、3階が共同住宅となっています。近隣には系列のグループホームや高齢者共同住宅があります。利用者の表情が明るく、生き生きとし、楽しく生活している様子が伺えます。運営推進会議や家族会を活用して意見を幅広く収集し、地域との関係や家族との信頼関係を築くよう努力し、成果を上げています。利用者のアセスメントをきめ細かく実施し、医療関係者とのやりとりを詳細に記録して、利用者一人ひとりの特徴や身体の状態の把握に努めています。外出支援や外出行事の設定、往診体制や通院の支援、身体拘束の禁止、食事を楽しめる環境作りなど、利用者の生活を尊重するケアを実現しています。職員同士のコミュニケーションも良好で、男性職員をバランスよく配置し、安心に繋げています。また職員全体でユニット毎に自己評価を実施し、サービス向上に向けて取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム・フロアに掲げている理念は目に触れる所に置き常に意識している。全体会議や申し送りの中でも理念に触れ共有化、ケアに反映させている	ももとの理念である「敬う心、尊敬ある暮らし」に職員で検討した運営理念を加え、その中で「地域社会の中でふれあいを大切にする」という文言を入れています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会行事に参加させて頂き、お礼にホーム行事へお招きするなど外出や社会参加の機会を設け地域との交流を図っている	公園での防災運動会に参加したり、小学校の運動会を見学しています。ボランティアの方にホームを訪問して頂いたり、ホームのお祭りに地域の方々が参加して頂いています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所を地域の総合学習の場として協力している。管理者は地域の研修・会合でキャラバンメイト活動を通して認知症を正しく理解して頂く為の活動を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者やサービスの実際、取組状況について報告、積極的な話し合いや質問に答え、安心・安全な暮らしとなるようアドバイスや意見を頂いた時にはサービス向上に反映させている。	運営推進会議は2ヵ月毎に開催され、防災や外部評価、行事などのテーマで話し合っています。地域包括支援センターや町内会副会長、多くの家族の方々などの参加を得ています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営やサービスの提供において課題が生じた時には担当者と協議し解決に向けての支援を受けている。地域包括センターの研修・勉強会への参加やキャラバンメイトへの協力などを通して行政との協働、連携を大切にしている	不明な点があれば市に問い合わせし、相談できる関係を築いています。地域包括支援センター主催の研修に参加したり、キャラバンメイトのメンバーとなり、市との協力関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束や権利擁護に関して日々の申し送りや全体会議でのケアの振り返りと全職員の共有認識を図っている。ユニット事務所にも身体拘束に関する文章を掲示、いつでも目に触れることで人格の尊重、人権擁護について常に意識し拘束の無いケアの実践を行っている	身体拘束に関する手引きを事務所に掲示したり、拘束防止に係る勉強会を行っており、職員間でお互いの行動が拘束にあたらないか確認しています。入口は夜間のみ施錠としており、ドアに鈴をつけて外出がわかるように工夫しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議でも取り上げOJTとして実施。資料の提供を行い虐待防止に関する理解と法令遵守に向けた取り組みを行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じ利用者や家族に「日常生活自立支援事業」や「成年後見・任意後見制度」の情報提供を行っている。個々の必要性、またそれらが活用できるように関係者と話し合うなど支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談段階や契約時には十分に時間を取り、重要事項をもとに説明を行い、納得と同意を得られるようにしている。また、契約解除に至る場合でも、今後の方向性の相談で納得いただける対応を心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	匿名で投書出来る目安箱を設置している。また、家族、利用者が要望を挙げやすい様職員、管理者は信頼関係の構築に日々取り組んでいる。課題の解決に向け利用者の日々の言動、家族の要望などに配慮しながらスタッフが十分に話し合いを重ねている。	運営推進会議と家族会を同日開催し、家族の意見を聞き対応方法を改善しています。会議に出席できない家族にもハガキで意見を聞いています。重要事項説明書に第三者の苦情・相談受付窓口を明記しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から何かある時は話し合いを行いコミュニケーションを取っている	月1回、全体会議とユニット会議を行い、職員間で意見交換をしています。委員会制度を設け、自発的な取り組みを促しています。法人内の異動は必要最低限としています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ個々の状況を把握し各自が向上心を持って働けるよう整備が行われている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の希望する研修会への参加の機会があり、それらの研修の受講報告を毎月の全体会議で発表することで共有化を図っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入、連絡会、交流会に参加し質の向上を目指している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談の段階から本人にもホームを見ていただき面談や傾聴でさりげなく観察、求めている事の推察や確認を行いながら安心確保のための関係性作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居が決まった段階でセンター方式のABシート記入依頼を通して今までのご苦労や不安に耳を傾け、これからは協働で本人の生活や人生を支えていけるよう話し合い、信頼関係の構築に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族等との話し合いをしっかりとし何を不安に思っているか、どうしたいか等を見極め、またより安心して頂けるような提案や事業所として出来る対応、場合によっては他のサービスに繋げるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食器洗い、拭きをする、洗濯物を干す、畳む等家事を共にする等協働に基づく活動で一緒に過ごしながら楽しく笑い、学び、支えあう関係を目指している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の気持ちや意見交換をし、ともに支援するよう努めている。行事にも参加して頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の自由、家族との外出、外泊を自由に行っている。継続的に交流が続けられるよう支援している。	知人との関係が途切れないよう、設置している公衆電話を利用して頂いたり、知人の来訪を歓迎しています。馴染みの喫茶店や美容院にも同行しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人ひとりのペースを考えながら、孤立しない様時にはスタッフが中に入りうまく関わりを持てるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、いままでと同様な関係性を保ち、必要に応じて本人、家族の経過を支え相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの暮らしてきた環境を壊さず、困難がある場合はご本人の許可の上で検討している。	家族や利用者からの情報、日頃の仕草や行動から思いや意向を把握し、職員間で共有しています。アセスメントシートで情報を蓄積しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、関係者からの聞き取りや、日頃の会話、シートへの記入をお願いする等で本人の生活歴や生活環境、これまでのサービス利用の過程の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの過ごし方、身体における状態、個々に応じた力等現状の把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が生活していく為に、よりよく暮らしていけるよう、本人・家族・必要な関係者と話し合い、意見やアイデアを出し合い現状に適した介護計画を作成している	詳細なアセスメントをもとに介護計画を作成し、その後は6ヵ月毎を目処に見直しが行われていますが、見直しが遅れているユニットも見受けられます。	定期的な、モニタリングの実施と介護計画の見直しを期待します。また、日々の記録についても、より介護計画の項目を意識した記載方法を工夫するよう期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子の変化、実践、結果を個別記録として残し、職員間で共有し実践、介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとり、家族の状況によって生まれるニーズに対応するため、既存のサービスだけに捉われない柔軟な支援で個々の満足が得られるようにサービスの多機能化に取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の暮らしを支えている地域資源を把握して、一人ひとりが安全でなおかつ力の発揮できる暮らしや接点を見つけ出し、町内会、商店街、周辺施設やボランティア、民生委員への働き掛けを通して地域の中で安心して豊かな暮らしとなるよう支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人及び家族の希望を聞きながらかかりつけ医と相談、関係を築きながら適切な医療が受けられるように支援している	協力医療機関による月2回の往診を受けており、皮膚科の往診も受けられます。かかりつけ医の通院支援も行っています。受診結果は家族に適切に報告しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時に同行看護師ともコミュニケーションを図り細かなところも伝え相談している。協力医療機関の看護師は利用者の特性も把握しており、往診時以外でも電話等で相談するなど協働体制にある		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には発病に至る経緯や本人の出来ること、介護の程度等を「介護要約」で情報提供し、病院関係者との連絡、情報交換を小まめに行い、関係性作りに努めている。また早期退院に向けた働きかけや今後の方向性について、ドクター、ソーシャルワーカー、本人、家族らと話し合いを重ねるなどで関係作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族、病院関係者、スタッフチーム、地域関係者と情報を共有し、話し合い、支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期の対応について、ホームの方針を整備し、家族との話し合いで、ホームの対応可能な範囲を書類で確認しながら説明しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が応急手当は初期対応の訓練を受け、身につけている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	普段の挨拶や町内会行事への参加、近隣施設を含めた連絡網等を通して地域や他施設との協力体制を築いている。全職員が災害時の避難訓練を定期的に行っている。	年2回、防災コンサルタントの指導のもと、日中と夜間を想定し、避難訓練を実施しています。一方、救急救命訓練は職員全員の定期的な訓練受講までには至っていません。	救急救命訓練について、各職員が2～3年に一回程度の受講機会が得られるよう、計画的な取り組みを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から一人一人とコミュニケーションを図り、個々にあった言葉掛けをしている。	利用者の誇りやプライバシーを尊重し普段の言葉掛けに気を配り、気付いた点を注意しあっています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃のコミュニケーションの中で思いを探り、自己決定できるよう言葉掛けをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重しその人が過ごしやすいよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしく季節に合った身だしなみができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養バランス考えながら一人ひとりが食事を楽しめるよう努めている	利用者も買い物の段階から共に食事のメニューを考え、準備や後片付けも手伝い、職員と会話しながら食事を楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス、水分など一人一人に合わせている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	清潔を保つために口腔ケアは欠かさず毎食後一人ひとり行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は一人ひとりのパターンでおむつはなるべく使用しない様自立に向けた支援を行っている	必要に応じて利用者の排泄を記録し、タイミングを見て誘導しています。誘導する場合は小さな声でさりげなく誘導しています。自立に向けた改善も実現しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防のため水分を多めに取っていただく。そのため飲食物の工夫など個々に応じた予防策に努めている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴する時は一人ひとりのタイミングに合わせて楽しみながら入浴されるよう努めている	毎日、午後の時間帯で入浴でき、週2～3回を目安に入浴しています。入浴を拒む場合も相性が良い職員が誘導したり、家族の協力を得て入浴に繋げています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に少しでも近づけるよう状況に応じて努力している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的は勿論のこと間違いがないか日々努力している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人個人の誕生日や町内会行事などの催事には出来る限り参加出来るよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりその日の希望をそのまま実行するのは難しいところがあるが、予定を組みなるべく希望へ沿った場所へ行ったりホームの外へ出て家族や地域の人と協力し合い多くの行事に参加している。	日頃から散歩や買い物に出かけており、車椅子の利用者も職員が連れて出かけています。初詣や花見、よさこい祭りや3ヵ月に一度の外出など、外出機会を数多く設定しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要以上の現金を持つことはないが、自分の欲しいものを選び買うことが出来るという意識をもってもらえるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	プライベートな通信をするための電話機を設置して希望があればその場所に誘導したり、手紙のやり取りも自由出来るよう支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな音が出たり派手な色彩の物は排除し、気持ちが落ち着くような花や写真などを飾り、また楽しい気分になれるようぬいぐるみ等を置き居心地のよい空間を作る工夫をしている	共用空間は清潔に保たれ家庭的な雰囲気となっています。壁には行事や外出時の写真、利用者の習字や折り紙が飾られています。温度や湿度、光や音も適切に調節され、居心地よく過ごせるように保たれています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の端に一人になれるように椅子を設置したり気の合う者同士でおしゃべり等出来るようソファを置いた空間を作り居心地良く過ごせるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は完全なプライベートゾーンになるように本人や家族と相談しながら家具等の設置を行っている。また思い出のある物やポスターは皆で大切に扱い利用者に満足して頂くよう配慮している	居室は利用者の馴染みの家具や生活用品が自由に持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっており、壁にも自由に写真やカレンダーを貼ることができます。居室の入口には一人ひとりの特徴ある表札を設置しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	内部は安全に移動できるように手すりを設置し、足元につまづく物が一切ない様にし「出来ること」「やりたいこと」の妨げになるものを排除する工夫をしている。		